

令和7年3月19日

「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立西尾小学校

校長 北原 千穂

| | | |
|---------------------------|--|--|
| 事業テーマ | 未来につなげよう、みんなの緑と豊かな心 — 自然と対話し、共生できる子どもの育成 — | |
| 取組の目的 | 「自然との共生を感じ取れる児童」すなわち動植物と会話ができるような感性を磨くとともに、自然を守り育て、共生できる児童を育てる。また、学校林である「やまびこの森」や「ビオトープ」を整備する活動を通して、自然の大切さを実感し、持続可能な社会のために主体的に発信できる児童を育てる。 | |
| 区分 (○印を付ける) | 新規事業・ 継続事業 (総事業年数11年間、11年目) | |
| 継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容 | 令和2～4年まで行ってきたギフチョウ調査を安全面から中止し原則校内での活動を行うようになった。令和5年度には校内の自然観察を通し、学校林への親しみ・愛着を持たせるようにしてきた。しかし一部の児童は興味を持続し自然へのかかわりを持ち続けていたが、環境を守り維持することまではできなかった。幸い地域の方の積極的な協力があり、環境が整備されている。今後も安全で安心して活動できる場にしていきたい。 自然と対話し環境学習を進める中で、子どもたち自身に環境に関することをこの先へとつなげていく必要性を感じ取らせ、発信したり、自分たちにできることは何かを考え実践したりできるようにしていきたい。 | |
| 事業名 | 事業内容 | 実施時期 |
| ○校内の自然調査や学校林・ビオトープなどの整備 | ○ビオトープ付近の自然観察と整備 ・樹木の調査や昆虫・植物の観察 ・環境整備 ○自然と共生し、子どもの安全安心を守るための学校林整備 ・ビートルハウスの整備 ・遊具の点検 ・枯れ枝、枯れ木の撤去、間伐 | 4月～12月 2月 5月 通年 本伏せ6月・菌打ち1月 10月 2月 |
| ○自然の良さ・維持継続に関わる活動 | ○ヤゴ救出作戦 ○やまびこの森(学校林)の恵みを知る ・環境学習以外の学びや体験の場としての活用 ・シイタケ栽培 ○どんぐりの植樹活動 ○学習成果の発表 | |
| 取組の成果 | <p>年4回講師を招いての自然観察は、学年ごとにテーマをもって取り組んだ。4年生では季節ごとに、校内の生き物や植物に様々な視点から触れることで、愛着を持つことができた。5年生では各自が観察する木を決め、講師による多角的な視点からの声かけで、その木に起こっている事象に気付き、変化を味わうことができた。6年生では、ビオトープを整備しながら水生生物の種類や数の統計を取り、推移の理由を考えた。</p> <p>どんぐり植樹をした5年生では、その後自然に対する見方が「そこにあるもの」から「愛しいもの」へと変化した。学習成果の発表の際に、「もっと調べたい」「ずっと残っていてほしい」「守っていききたい」などの感想を添えていた。</p> <p>低学年ではシイタケ栽培を通して、「やまびこの森」がシイタケの生育によい環境であることを学んだ。花きや野菜などを育てる場合には日当たりを良くする一方で、湿気がありながら直接雨が当たることのない場所で育つものもあると知ることができた。</p> <p>なお学習発表会で、級友や保護者に向けて、学んだことを分かりやすく伝えることができた。</p> | |
| 課題 | それぞれに自然への感性を磨く学習ができているので、その学びを子ども同士で伝え合う活動を継続し、持続可能な社会のために主体的に発信できるよう育てていきたい。 | |